

平成26年度 特別推進研究 審査の所見

研究課題名	MEG II 実験－究極感度ミュー粒子稀崩壊探索で大統一理論に迫る
研究代表者	森 俊則
審査の所見	<p>荷電レプトンのフレーバーの保存則が破れていることが発見できれば、それはすなわち、素粒子の標準理論を超える新たな物理の存在の証明となる。ミュー粒子が電子と光子に崩壊する過程はこの代表的なものである。応募者らはこれまで、この崩壊を探索する実験（MEG 実験）を、スイスの PSI 研究所において特別推進研究（平成22年度～25年度）として進め、世界最高の感度でその崩壊分岐比の上限値を与えた。</p> <p>本研究は、測定器の改良とビーム強度の増強によって、現在よりもさらに1桁感度を上げる研究計画であり、今後数年にわたり世界最高感度の測定結果を出し続けることが期待できる。</p> <p>以上の理由により、引き続き特別推進研究として採択することが相応しい課題であると判断した。</p>